

排出事業者及び産業廃棄物処理業者 ヒアリング資料

| | | |
|---------------|--------------------|---------|
| 大谷化学工業株式会社 | 梅田佳暉 氏 |1 |
| 三重中央開発株式会社 | 井上吉一 氏 |3 |
| 日本土建株式会社 | 石原敬祐 氏 |5 |
| 社団法人日本経済団体連合会 | 高橋秀夫 氏 (本検討会委員) |21 |

産業廃棄物行政と政策としての税の在り方に関する検討会の資料

社団法人 福岡県産業廃棄物協会
会 長 梅 田 佳 暉

1. 当社における産業廃棄物の処理状況およびその推移

- 1-1 当社は福岡県全域において、産業廃棄物の処理および収集運搬を永年行っています。福岡県では、北九州市が平成 15 年 10 月より施工され、福岡県においては、平成 17 年ごろ施工予定で、現在その調整をおこなっているところです。
- 1-2 これより、北九州市の環境未来税について意見を申し上げることし、その実施の内容は、北九州市内の処分場で処分される廃棄物に課税するもので、8 社の最終処分業者と若干の自家処分業者に申告納税するものです。その主たる処分業者にあっては、第三セクターで運営され、処分費も安価であり、(九州平均の 60%)処分費に上乘せして税徴収を行っています。この法の施工時より、処分費の税分の値上げが処理業者、処分業者からありましたが、他に比べ対した負担増にはならず、排出者の処理費等は現状維持でおこなっています。
- 1-3 しかしながら、結果的には、廃棄物の発生抑制にはなっていないようで、そのほとんどの排出者、処理業者等への影響はないようです。
- 1-4 当社においても同様であり、具体的な対応はおこなっていません。

2. 課税開始までに取り組まれた具体的な内容

- 2-1 北九州市内の処理、処分場へ搬入する廃棄物の顧客に対し、その税負担の値上げと意義と説明をおこないましたが、そのほとんどの顧客において、環境未来税の意義は理解したものの、値上げについては認めていただけいただけませんでした。大部分の排出者が課税分を処理費のサービスとして求め、その負担は運搬業者や処理業者がおこなうことになっています。
- 2-2 また、排出事業者に最終処分へ持ち込み分の廃棄物量に該当する、環境未来税の上乗せ分を理解していただくため、説明をおこなってきましたが、排出者が排出する産業廃棄物の量に対し、最終処分場にかかる環境未来税分の金額の算出に理解が求められず、便乗値上げ、もしくはサービスのどちらかになっています。
- 2-3 しかしながら、北九州市市内の処理、処分業者から、他の地域の処理業者等に処理委託の変更をする必要がなく、現状のまま続けています。

3. 課税開始以降の変化

- 3-1 上記の状況により、排出事業者の発生抑制の向上や、処理業者双方と

も、特別な変化ありません。

4. 税の使途に対する意見

- 4-1 廃棄物の処理と市民にとって快適な環境を両立させた 21 世紀型の街づくり、リサイクル・資源化技術に対する研究開発等の支援、循環型産業を基軸とした新環境産業の創造とありますが、全国的には廃棄物の発生抑制を重点項目としていますが、北九州市においては、発生抑制よりも、圧倒的に多い、市外で発生し、搬入された廃棄物について、再生や適正処理について支援するための使途であるように考えます。
- 4-2 また、エコタウン施設や大手企業の支援は厚く、零細企業や排出事業者への支援は薄い傾向が見えるようです。

5. 当検討会に対する要望等

- 5-1 この検討委員会の位置づけと、開催および結論を踏まえ、環境省に対する、意見申し立てについて、早い時期におこなうべきであり、数十件の県や政令市が導入や条例を立ち上げた今、これから、どのように、この委員会を進め、そのまとめは、どのように運用するのが問題であると考えます。
- 5-2 この検討委員会のまとめが全国の標準方式として、今後、環境省や総務省より、それぞれの先行行政に対し、指導あるいは修正をかけ、また、今後、同様に課税をおこなう行政に対しても、一連の運用を仕組むことができるものであれば、今後真剣に議論することが必要だと考えますが、そうでなければ・・・
- 5-3 この産廃税の仕組みの考え方は、税を課することから始まり、その検討委員会にあっても、税の専門家の意見が多く取り入れられているようです。本来、廃棄物の発生抑制や環境保全のために取り入れられる税であるべきで、税ありきの姿にはなじめないと考えます。
- 5-4 また、福岡県では、平成 17 年に施行される予定ですが、先行した北九州市との協調や排出者課税で処理業者徴収義務を課した場合、その実務は非常に煩雑かつ、処理業者に対する負担となり、実務的でないと考えます。
- 5-5 本来、廃棄物の排出抑制を視点に置くなら、排出者に課税し、納税することが有力であり、財源調達のためなら、徴収、納税の簡単な最終処分業者に課せることが必要と考えます。

三重県の産廃税について

三重中央開発株式会社
常務取締役 井上吉一

1. 弊社における産業廃棄物の処理状況及びその推移（平成13年、14年）
弊社が受け入れている産業廃棄物の総重量（平成13年度、平成14年度）の内
で埋立処分量と再資源化及び中間処理量に分けて集計した結果を下表に示す。

産業廃棄物処理量の推移

| | 埋立処分量 | 再資源化及び 中間処理量 | 合計 |
|--------|---------|-----------------|----------|
| 平成13年度 | 47,000t | 93,000t | 140,000t |
| 平成14年度 | 54,000t | 121,000t | 175,000t |

産廃税申告納付該当リスト（試算）

| | 地域 | 企業数 | 納税額 | 合計 |
|--------|----|-----|-------------|-------------|
| 平成13年度 | 県内 | 5社 | 7,619,000円 | 16,685,000円 |
| | 県外 | 4社 | 9,066,000円 | |
| 平成14年度 | 県内 | 4社 | 17,015,000円 | 25,379,000円 |
| | 県外 | 7社 | 8,364,000円 | |

2. 課税までに取り組んだ具体的な内容

産廃税導入に伴い排出事業者の費用負担とこれに伴って予測される処分業者の振り分けを避けるため、軽減するための取組みとして、いくつかの企業努力を行っている。

- ・ 収集運搬車両に25t車（通常は10t車まで）を導入し運賃コストの削減を図った。
- ・ 三重県産業廃棄物税条例第8条第2項に規定されている再生施設の認定についての取組みを行った。

再生施設の認定基準として

再生施設で生産される再資源化商品が1年以上の販売実績又は自社利用の実績が必要。

再生施設から排出される製品及び廃棄物等の合計量の内9割以上が販売又は自社利用されている実績が必要。

があり、再生施設の製品や排出される廃棄物の量について定められた実績期間内（1年間）でデータ集積を行った。その上で産廃条例に規定する再生施設の認定を受けるため監督官庁に申出を行い、最終的には焼成（焼却灰等の再資源化）と肥料化（汚泥等の乾燥肥料化）施設が再生施設の認定を受けた。

3 . 課税が開始されて以降の変化

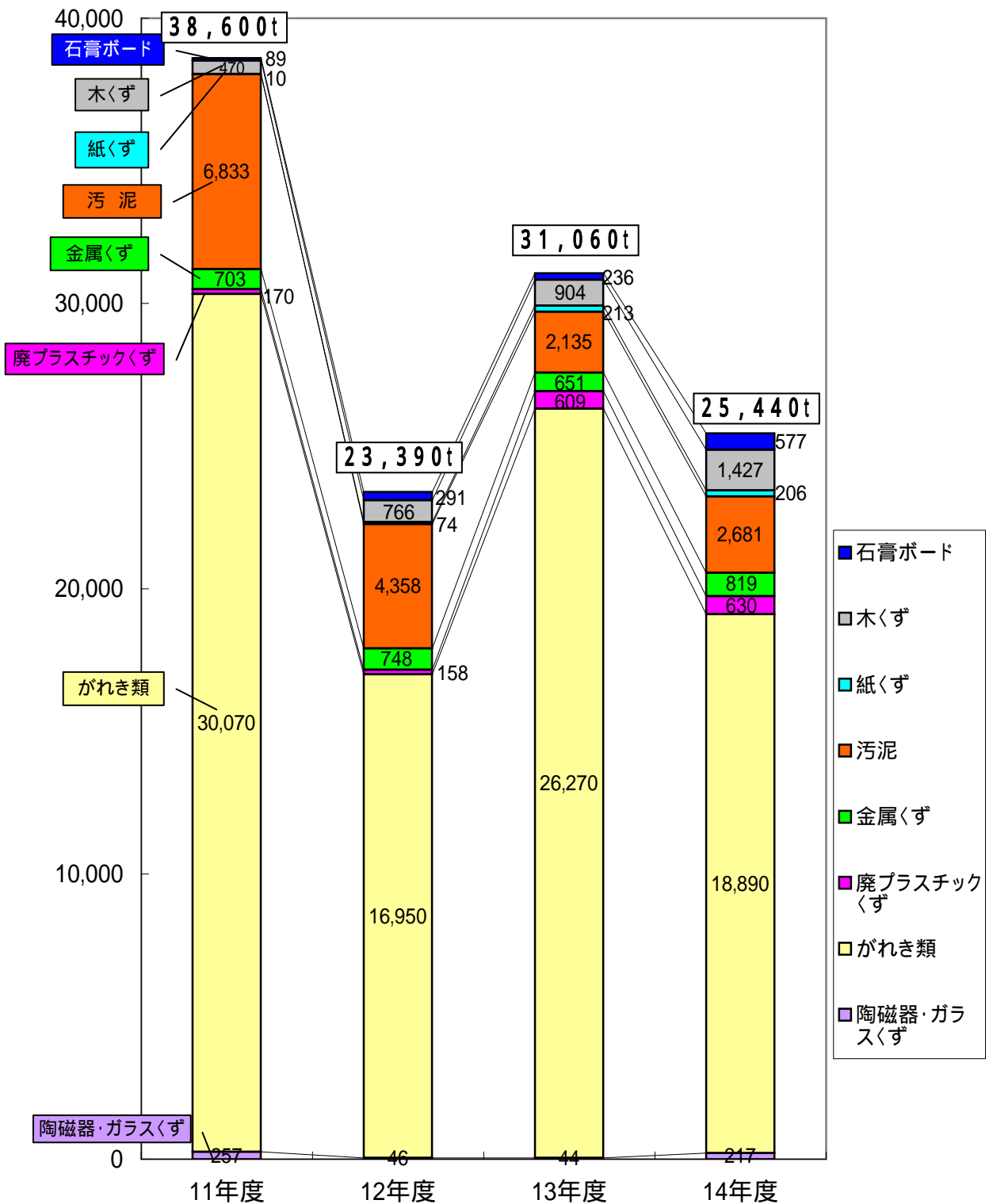
- 1000t 未満は非課税となることから、排出事業者が他の処理先を確保し処理先の分散を行った。
- 排出事業者が廃棄物の発生を抑制した。
- 排出事業者から産業廃棄物の処理方法の変更について強い要請があった。
例) 埋立 中間処理、埋立 再資源化

4 . 税の用途について

- 納税対象企業が処理を委託している処理会社が所在する地域の周辺整備等への積極的な還元を希望する。
- 企業の研究開発や設備機器の整備に補助金として使用され産業廃棄物の削減に成果を上げたとされているが一時的な現象なのかどうかチェックするシステムが確立されているのか疑問に思う。

産廃税制度施行の実態と効果

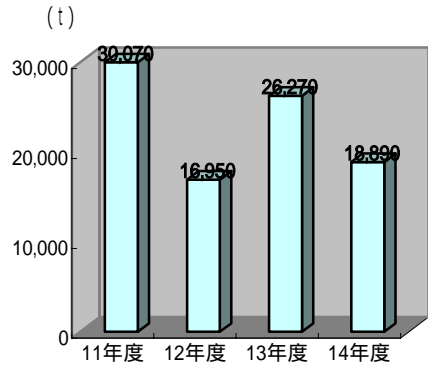
産業廃棄物総排出量の推移



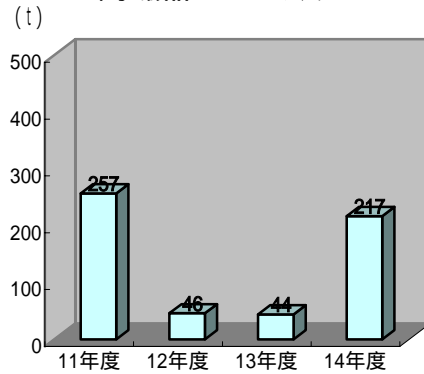
産業廃棄物の排出状況及び推移

種類別廃棄物の排出量

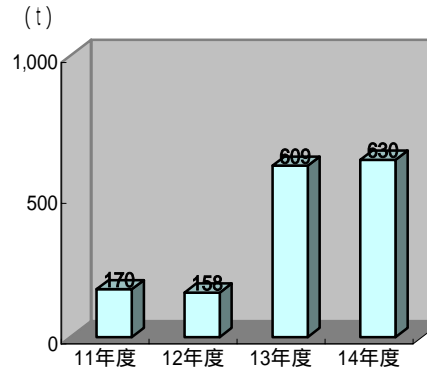
がれき類



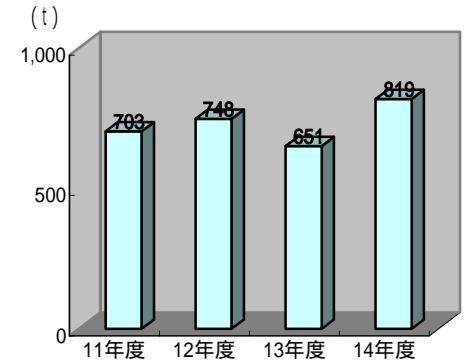
陶磁器・ガラスくず



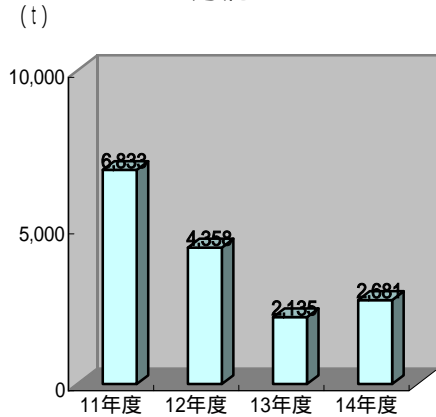
廃プラスチックくず



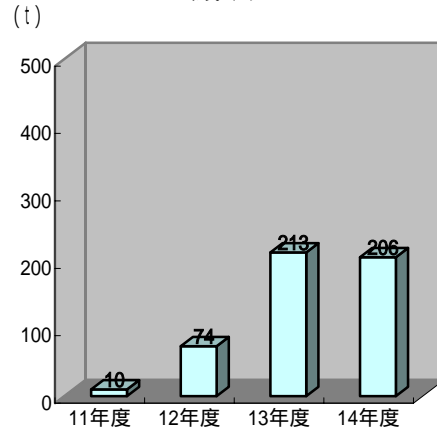
金属くず



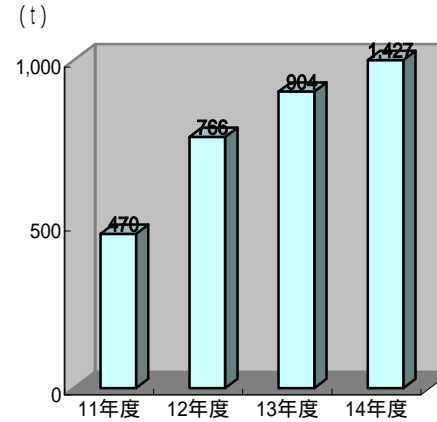
汚泥



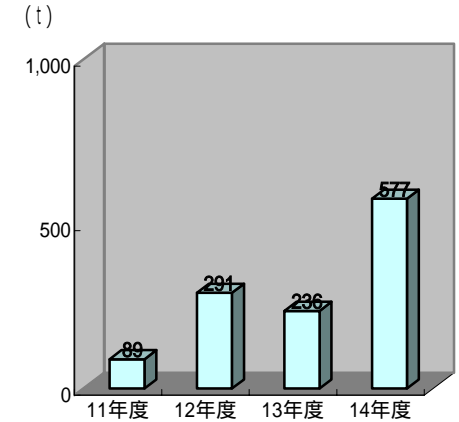
紙くず



木くず



石膏ボード



産業廃棄物の排出状況と排出量推移

- ・排出総量：年度によって変動はあるが減少傾向
- ・種類別排出量：減少傾向にあるもの、増加傾向にあるものそして横這い状況とまちまち
- ・減少傾向にある廃棄物：作業所内で処理及び利用できるもの
- ・増加傾向にある廃棄物：作業所内で処理及び利用できないもの

平成13年度対象産業廃棄物量に対する推定課税標準

| | がれき類 | ガラス・陶磁器くず | 廃プラスチックくず | 金属くず | 汚泥 | 紙くず | 木くず | 繊維くず | 石膏ボード | 計 |
|---------|---------|-----------|-----------|-------|--------|-------|-------|------|-------|---------|
| 排出量(t) | 26162.6 | 43.5 | 608.8 | 649.9 | 2134.6 | 213.1 | 904.7 | 2.5 | 235.5 | 30955.2 |
| 課税標準(t) | 189.4 | 39.3 | 540.6 | 238.0 | 30.0 | 157.6 | 515.7 | 2.5 | 141.8 | 1854.9 |
| 再生施設搬入率 | 99.3% | 9.7% | 11.2% | 63.4% | 98.6% | 26.0% | 43.0% | 0.0% | 39.8% | 94.0% |

平成14年度対象産業廃棄物量に対する実績課税標準

| | がれき類 | ガラス・陶磁器くず | 廃プラスチックくず | 金属くず | 汚泥 | 紙くず | 木くず | 繊維くず | 石膏ボード | 計 |
|---------|--------|-----------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|
| 排出量(t) | 18,723 | 217 | 622 | 810 | 2,681 | 202 | 1,419 | 1.2 | 577 | 25252.2 |
| 課税標準(t) | 0 | 135 | 520 | 133 | 20 | 102 | 55 | 0.4 | 304 | 1269.4 |
| 再生施設搬入率 | 100.0% | 37.8% | 16.4% | 83.6% | 99.3% | 49.5% | 96.1% | 66.7% | 47.3% | 95.0% |

三重県認定の再生施設への搬入状況

- ・がれき類、汚泥及び木くずはほぼ100%
- ・廃プラスチックくず、ガラス・陶磁器くずは50%以下

課税開始前の取組み

削減への取組み

事業所内での減量化方法の検討

- ・場内縮減
- ・場内再利用
- ・場内再生利用

抑制方法の検討

- ・実寸発注(プレカット)
- ・工場加工(ユニット化持ち込み)
- ・工法の変更

税制度対応への取組み

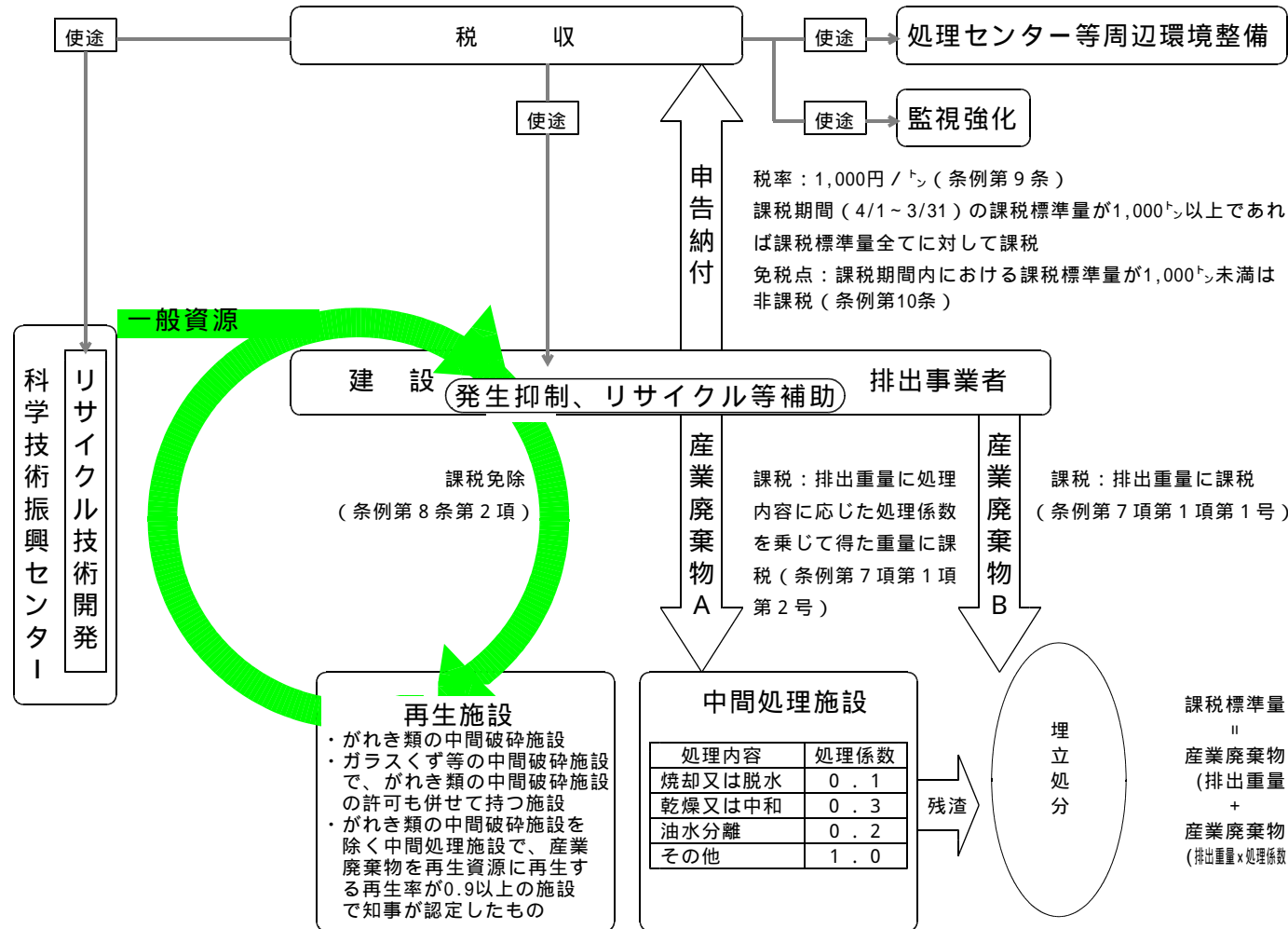
産廃税対応体制の確立

- ・システム確立に関する責任と権限
- ・情報の収集
- ・必要な書類を含めた手順
- ・対応手順の教育

処理業者の整理及び選別

- ・三重県認定の再生施設の調査
- ・再生施設及び再生品目を記載して、処理業者及び処分業者名簿を整備

産業廃棄物税（目的税）のイメージ



換算係数表

| 産業廃棄物の種類 | 換算係数 |
|---|------|
| 1. 燃え殻 | 1.04 |
| 2. 汚泥 | 1.10 |
| 3. 廃油 | 0.90 |
| 4. 廃酸 | 1.25 |
| 5. 廃アルカリ | 1.13 |
| 6. 廃プラスチック類 | 0.35 |
| 7. 紙くず | 0.30 |
| 8. 木くず | 0.55 |
| 9. 繊維くず | 0.12 |
| 10. 食品品製造業、医薬品製造業又は香料製造業において原料として使用した動物又は植物に係る固形状の不要物 | 1.00 |
| 11. 廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（昭和46年政令第300号。以下「廃棄物処理施行令」という。）第2条第4号の2に掲げる産業廃棄物 | 1.00 |
| 12. ゴムくず | 0.52 |
| 13. 金属くず | 1.13 |
| 14. ガラスくず及び陶磁器くず | 1.00 |
| 15. 鋳さい | 1.93 |
| 16. 工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたコンクリートの破片その他これに類する不要物 | 1.48 |
| 17. 動物のふん尿 | 1.00 |
| 18. 動物の死体 | 1.00 |
| 19. 廃棄物処理法施行令第2条第12号に掲げる産業廃棄物 | 1.26 |
| 20. 廃棄物処理法施行令第2条第13号に掲げる産業廃棄物 | 1.00 |

- 共同企業体の場合は、課税標準量を請負比率で配分する。
サブの場合には、集計表・ manifests等が当社に残らないので、廃棄物の処理内訳がわかるコピーを残す。
 - 課税期間 4月1日から翌年3月31日への算入基準は処理施設又は最終処分場への搬入日とする。
 - 産業廃棄物を容量を重量に換算する場合は、換算係数表の換算係数を種類別容量に乘じる。
但し、種類毎の産業廃棄物の容量が計測できない廃棄物にあっては、その主な産業廃棄物の換算係数を乘じる。
- 注意：建設副産物適正処理マニュアルで扱う産業廃棄物は、共同企業体のメインのみでサブは扱っていないので混同しないこと。
三重県の産業廃棄物の最終処分場又は中間処理場への搬入を課税対象とします。すなわち、他県の処理場又は処分場へ搬入したものは対象としないということです。

建設副産物入力表

工事コード _____
 作業所名 _____
 所長名 _____

工事場所 _____
 請負比率 100 _____

| 産業廃棄物の種類 | | | |
|----------|----------|------|----|
| 1 | コンクリート殻 | 1.48 | m3 |
| 101 | コンクリート殻 | 1.00 | t |
| 2 | アスファルト殻 | 1.48 | m3 |
| 102 | アスファルト殻 | 1.00 | t |
| 3 | その他がれき類 | 1.48 | m3 |
| 103 | その他がれき類 | 1.00 | t |
| 4 | ガラス陶器類 | 1.00 | m3 |
| 104 | ガラス陶器類 | 1.00 | t |
| 5 | 廃プラスチック類 | 0.35 | m3 |
| 105 | 廃プラスチック類 | 1.00 | t |
| 6 | 金属くず | 1.13 | m3 |
| 106 | 金属くず | 1.00 | t |
| | 混合(安定型のみ | | m3 |
| 107 | 混合(安定型のみ | 1.00 | t |
| 11 | 建設汚泥 | 1.10 | m3 |
| 111 | 建設汚泥 | 1.00 | t |
| 12 | 紙くず | 0.30 | m3 |
| 112 | 紙くず | 1.00 | t |
| 13 | 木くず | 0.55 | m3 |
| 113 | 木くず | 1.00 | t |
| 14 | 繊維くず | 0.12 | m3 |
| 114 | 繊維くず | 1.00 | t |
| 15 | 廃石膏ボード | 1.00 | m3 |
| 115 | 廃石膏ボード | 1.00 | t |
| | 混合(管理型含む | | m3 |
| 116 | 混合(管理型含む | 1.00 | t |

| 処分の方法 | 収集運搬業者名 | 車両番号 |
|--------|---------|------|
| 1 破碎 | 1 | 1 |
| 2 焼却 | 2 | 2 |
| 3 脱水 | 3 | 3 |
| 4 埋立 | 4 | 4 |
| 5 選別 | 5 | 5 |
| 6 熔融 | 6 | 6 |
| 7 圧縮 | 7 | 7 |
| 8 造粒固化 | 8 | 8 |
| 9 再生 | 9 | 9 |
| | 10 | 10 |
| | | 11 |
| | | 12 |
| | | 13 |
| | | 14 |
| | | 15 |
| | | 16 |
| | | 17 |
| | | 18 |
| | | 19 |
| | | 20 |
| | | 21 |
| | | 22 |
| | | 23 |
| | | 24 |
| | | 25 |

注意
 混合廃棄物をm3で記入した場合は、
 主な廃棄物の一つを選び、その番号を
 入力して下さい。

| 処理業者 | 処理施設所在地 |
|------|---------|
| 1 | |
| 2 | |
| 3 | |
| 4 | |
| 5 | |
| 6 | |
| 7 | |
| 8 | |
| 9 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |
| 17 | |
| 18 | |
| 19 | |
| 20 | |
| 21 | |
| 22 | |
| 23 | |
| 24 | |
| 25 | |

| 交付年月日 | 交付番号 | 産業廃棄物の種類 | 産業廃棄物の数量 | 換算係数 | 処分方法 | 収集運搬業者名 | 運搬車両番号 | 搬入年月日 | 処理業者名 | 処理施設所在地 | 再生施設適:0 否:1 |
|-------|------|----------|----------|------|------|---------|--------|-------|-------|---------|-------------|
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

資料 3

年度 部 記入担当者

産廃台帳入力集計表

単位はトン

| がれき類 | | | ガラスくず・陶磁器くず | 廃プラスチックくず | 金属くず | 混合(安定型のみ) | 汚泥 | 紙くず | 木くず | 繊維くず | 廃石膏ボード | 混合(管理型含む) | 合計 | 課税標準となる重量合計 |
|----------|---------|---------|-------------|-----------|---------|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|---------|-------------|
| コンクリートがら | アスコンがら | その他 | | | | | | | | | | | | |
| 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 |
| | | | | | | | | | | | | | 0.00000 | 0.00000 |

産廃税用帳簿集計表(単独・JVメイン)

| がれき類 | | | ガラスくず・陶磁器くず | 廃プラスチックくず | 金属くず | 混合(安定型のみ) | 汚泥 | 紙くず | 木くず | 繊維くず | 廃石膏ボード | 混合(管理型含む) | 合計 | 課税標準となる重量合計 |
|----------|---------|---------|-------------|-----------|---------|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|---------|-------------|
| コンクリートがら | アスコンがら | その他 | | | | | | | | | | | | |
| 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 |
| | | | | | | | | | | | | | 0.00000 | 0.00000 |

三重県用適正処理集計表

| がれき類 | | | ガラスくず・陶磁器くず | 廃プラスチックくず | 金属くず | 混合(安定型のみ) | 汚泥 | 紙くず | 木くず | 繊維くず | 廃石膏ボード | 混合(管理型含む) | 合計 |
|----------|---------|---------|-------------|-----------|---------|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|---------|
| コンクリートがら | アスコンがら | その他 | | | | | | | | | | | |
| 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 |
| | | | | | | | | | | | | | 0.00000 |

適正処理集計表

| がれき類 | | | ガラスくず・陶磁器くず | 廃プラスチックくず | 金属くず | 混合(安定型のみ) | 汚泥 | 紙くず | 木くず | 繊維くず | 廃石膏ボード | 混合(管理型含む) | 合計 |
|----------|---------|---------|-------------|-----------|---------|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|---------|
| コンクリートがら | アスコンがら | その他 | | | | | | | | | | | |
| 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 |
| | | | | | | | | | | | | | 0.00000 |

リサイクル対象工事集計表

| がれき類 | | | ガラスくず・陶磁器くず | 廃プラスチックくず | 金属くず | 混合(安定型のみ) | 汚泥 | 紙くず | 木くず | 繊維くず | 廃石膏ボード | 混合(管理型含む) | 合計 |
|----------|---------|---------|-------------|-----------|---------|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|---------|
| コンクリートがら | アスコンがら | その他 | | | | | | | | | | | |
| 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 |
| | | | | | | | | | | | | | 0.00000 |

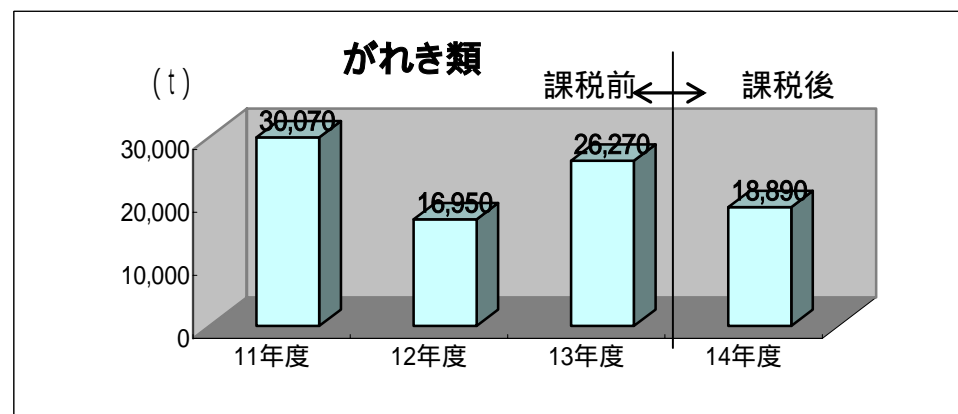
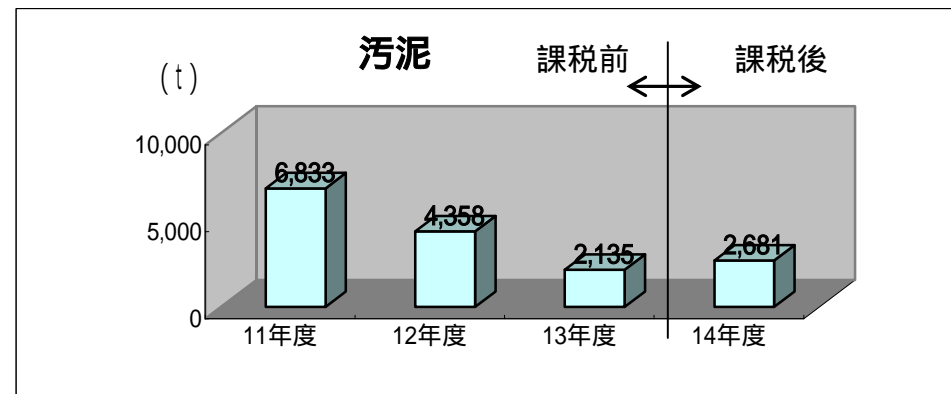
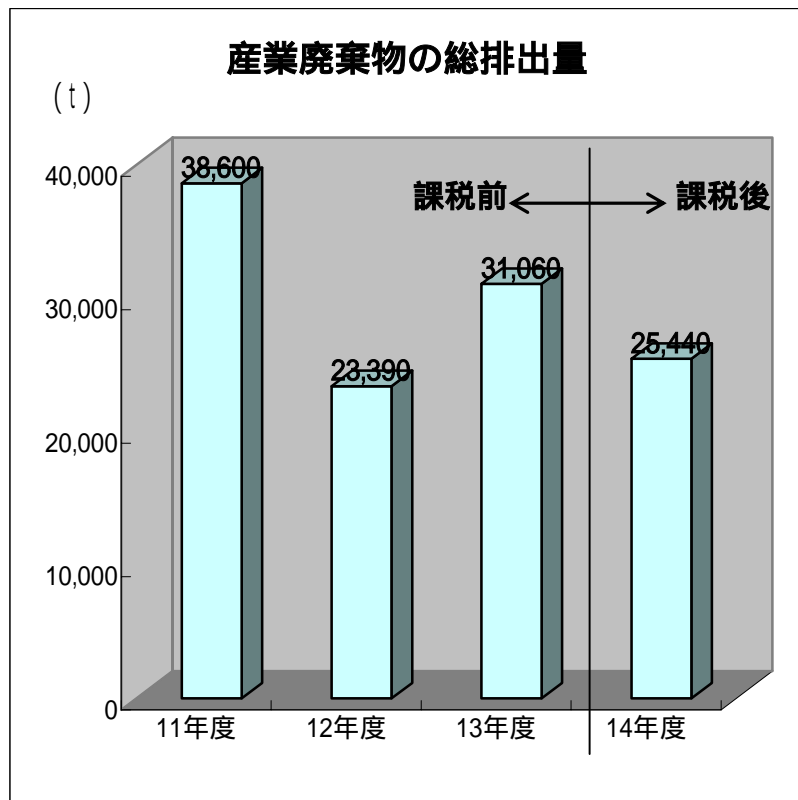
JVサブ産廃税用集計表

| がれき類 | | | ガラスくず・陶磁器くず | 廃プラスチックくず | 金属くず | 混合(安定型のみ) | 汚泥 | 紙くず | 木くず | 繊維くず | 廃石膏ボード | 混合(管理型含む) | 合計 | 課税標準となる重量合計 |
|----------|---------|---------|-------------|-----------|---------|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|---------|-------------|
| コンクリートがら | アスコンがら | その他 | | | | | | | | | | | | |
| 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 | 0.00000 |
| | | | | | | | | | | | | | 0.00000 | 0.00000 |

| |
|--------------|
| 課税標準となる重量総合計 |
| 0.00000 |

課税開始後の変化

排出量の動向 (1)



総排出量は減少傾向

場内で比較的容易に処理ができ、そして利用できる種類の廃棄物は減少傾向

課税開始後の変化

1. 具体的な取組み

1) 事業所内での減量化

汚泥の乾燥

場内利用

発生土として処分

がれき類の破碎

碎石として利用

分別収集

有価物として処分

分別収集

実情にあった分別収集

適正処理

2) 発生抑制

・家具等の現場加工を少なくする

・軽量鉄骨下地等のプレカット

・杭工事の工法変更

セメントミルク工法杭 鋼管杭

2. 処理費等の変化

・税導入に伴う収集・運搬及び処理費用の変化なし

・税導入に伴い差別化のため再生施設を整備することにより、処理費が下がった業者も一部あり

・県認定の再生施設で処分するために搬入のため距離が長くなり、収集運搬費が高くなるものあり

税の使途に対する意見

| | |
|--|---|
| <p>最終処分場の逼迫により処理、処分費がUPしている</p> <p>再生処理施設の偏在による運搬距離が延びることによる収集運搬費の増加</p> | <ul style="list-style-type: none">・公共の最終処分場の整備並びに民間の処分場及び処理施設の整備等への補助、融資が必要ではないか・再生処理施設が廃棄物の種類によっては偏在するため、偏在を緩和するための再生処理施設の適切な設置を促すための補助及び融資が必要ではないか |
|--|---|

資料 4

三重県認定廃プラスチック再生施設



三重県認定汚泥再生施設



要 望

1. 産廃税制度で要求される帳簿及び申告書類の作成に掛かる手間が大きい

・どのような産業においても容易に対応できる単純な制度に

2. 他の規制等との整合性を図り、無駄な作業をなくす

資料 5

産業廃棄物税にかかる帳簿の記載例

※建設業の排出事業者が中間処理施設（再生施設）に搬入する場合

| 搬入年月日 | 産業廃棄物の種類 | 重量 | 処分の方法 | 課税標準となるべき重量 | 搬入施設の名称 | 搬入先施設の所在地 | マニフェスト交付番号 | マニフェスト記載搬入数量 | 建設工事の名称 | 建設工事の場所 | 再生施設への搬入 |
|---------|----------|--------|-------|-------------|------------|-----------|------------|--------------|----------|---------|----------|
| H14.4.1 | がれき類 | 12.34ト | 破碎 | 0ト | 〇〇中間処理センター | 津市〇〇町13 | 30000000 | 12.34ト | 〇〇ビル新築工事 | 津市△△町13 | 該当 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

第3号様式（第9条関係）

受
付
印

| | | |
|-------|-----------------|---------|
| 年 月 日 | 発 信 年 月 日 | 精 査 検 算 |
| | 通 信 日 付 印 確 認 印 | |

| | |
|--------------------------|--------|
| 県税事務所長 様 | |
| 住所又は所在地 〒 | (電話) |
| 氏名又は名称及び法人にあっては、その代表者の氏名 | Ⓜ |
| 事業所の名称及び所在地 〒 | |
| 担当者の氏名 | (電話) |

**産 業 廃 棄 物 税 申 告 書
修 正 申 告 書**

| 課 税 期 間 | | 年 月 日 から 年 月 日まで | | |
|---------|-----------------|------------------|--------|---|
| 区 分 | 課 税 標 準 量 | 税 率 | 税 額 | |
| 申告納付 | 申 告 | トン | 1,000円 | 円 |
| | 納付年月日 | 年 月 日 | | |
| 修正申告納 | 修正申告 | トン | 1,000円 | 円 |
| | 当初申告 | トン | 1,000円 | 円 |
| | 修正申告書による納付すべき税額 | - | - | 円 |
| | 納付年月日 | 年 月 日 | | |

注1 この申告書又は修正申告書は、三重県産業廃棄物税条例（以下「条例」という。）第12条に規定する申告書又は第13条2項に規定する修正申告書を提出する場合に使用してください。
 2 この申告書又は修正申告書には、別表1及び別表2（条例第7条第2項に規定する要件に該当する場合に限る。）を添付してください。
 3 印の欄は、記載しないでください。
 4 「事業所の名称及び所在地」の欄における「事業所」とは、三重県産業廃棄物税条例施行規則第3条に規定する事業所をいいます。
 5 「課税標準量」の欄には、トン未満の端数を処理しないで、別表1の「合計（+）」の欄の重量と別表2の「合計（+）」の欄の重量を合計した重量を記載してください。
 6 「税額」の欄に記載すべき数値に100円未満の端数金額があるときは、その端数を切り捨ててください。

（規格A4）

14/15

資料 6

別表 1

| 氏名又は名称及び法人 にあつては、その代表者の氏名 | | | | | |
|--------------------------------------|----------|-----------------|---------|-----------|------------------|
| 課税期間 | | 年 月 日から 年 月 日まで | | | |
| 課税標準に関する明細書 | | | | | |
| 搬入先 | 施設の区分 | 産業廃棄物の種類 | 重量 A | 処理係数 B | 課税標準 C(A × B) |
| 最終処分 場への 搬入 | / | | トン | | トン |
| | | | トン | | トン |
| | | | トン | | トン |
| | | | トン | | トン |
| | | | トン | | トン |
| | | | トン | | トン |
| | | | トン | | トン |
| 小 計 | | | | | トン |
| 中間処理 施設（再 生施設を 除く。） への搬入 | 施設 | | トン | | トン |
| | 施設 | | トン | | トン |
| | 施設 | | トン | | トン |
| | 施設 | | トン | | トン |
| | 施設 | | トン | | トン |
| | 施設 | | トン | | トン |
| 小 計 | | | | | トン |
| 合 計 | | | (+) | | トン |
| 再生施設 への搬入 | 名 称 | | | | |
| | 所 在 地 | | | | |
| | 産業廃棄物の種類 | 重量 | A | | トン |
| | 名 称 | | | | |
| | 所 在 地 | | | | |
| | 産業廃棄物の種類 | 重量 | A | | トン |
| | 名 称 | | | | |
| | 所 在 地 | | | | |
| 産業廃棄物の種類 | 重量 | A | | トン | |

- 注 1 「産業廃棄物の種類」の欄には、三重県産業廃棄物税条例施行規則第 5 条の表の上欄に掲げる産業廃棄物の種類を記載してください。
- 2 「施設の区分」の欄には、処分業の許可に係る事業の範囲に応じた施設の区分を記載してください。
- 3 「重量 A」の欄及び「課税標準 C(A × B)」の欄には、トン未満の端数を処理しないで、重量を記載してください。
- 4 「処理係数 B」の欄には、三重県産業廃棄物税条例（以下「条例」という。）第 7 条第 1 項第 2 号の表の下欄に掲げる処理係数を記載してください。ただし、条例第 8 条第 1 項に規定する知事が適当であると認めるときは、「特例適用」と記載してください。
- 5 「再生施設への搬入」の欄には、条例第 8 条第 2 項に規定する再生施設に搬入した場合のみ記載してください。

（規格 A 4）

別表 2

| 氏名又は名称及び法人 にあつては、その代表者の氏名 | | | | | | | |
|--------------------------------------|----------------|-----------------|----------------|-------------------|----------------------|-----------|------------------|
| 課税期間 | | 年 月 日から 年 月 日まで | | | | | |
| 課税標準に関する明細書 | | | | | | | |
| 搬入先 | 施設の区分 | 産業廃棄物 の 種 類 | 容 量 A | 換算係数 B | 換算して得た重量 C(A × B) | 処理係数 D | 課税標準 E(C × D) |
| 最終処分 場への 搬入 | / | | m ³ | | | トン | トン |
| | | | m ³ | | | トン | トン |
| | | | m ³ | | | トン | トン |
| | | | m ³ | | | トン | トン |
| | | | m ³ | | | トン | トン |
| | | | m ³ | | | トン | トン |
| | | | m ³ | | | トン | トン |
| 小 計 | | | | | | | トン |
| 中間処理 施設（再 生施設を 除く。） への搬入 | 施設 | | m ³ | | | トン | トン |
| | 施設 | | m ³ | | | トン | トン |
| | 施設 | | m ³ | | | トン | トン |
| | 施設 | | m ³ | | | トン | トン |
| | 施設 | | m ³ | | | トン | トン |
| | 施設 | | m ³ | | | トン | トン |
| 小 計 | | | | | | | トン |
| 合 計 | | | | | | | トン |
| 再生施設 への搬入 | 名 称 | | | | | | |
| | 所 在 地 | | | | | | |
| | 容 量 A | m ³ | 換算係数 B | | 換算して得た重量 C(A × B) | | トン |
| | 名 称 | | | | | | |
| | 所 在 地 | | | | | | |
| | 容 量 A | m ³ | 換算係数 B | | 換算して得た重量 C(A × B) | | トン |
| | 名 称 | | | | | | |
| | 所 在 地 | | | | | | |
| 容 量 A | m ³ | 換算係数 B | | 換算して得た重量 C(A × B) | | トン | |

- 注 1 「産業廃棄物の種類」の欄には、三重県産業廃棄物税条例施行規則（以下「規則」という。）第 5 条の表の上欄に掲げる産業廃棄物の種類を記載してください。
- 2 「施設の区分」の欄には、処分業の許可に係る事業の範囲に応じた施設の区分を記載してください。
- 3 「容量 A」の欄、「換算して得た重量 C(A × B)」の欄及び「課税標準 E(C × D)」の欄には、立方メートル又はトン未満の端数を処理しないで、容量又は重量を記載してください。
- 4 「換算係数 B」の欄には、規則第 5 条の表の下欄に掲げる換算係数を記載してください。
- 5 「処理係数 D」の欄には、三重県産業廃棄物税条例（以下「条例」という。）第 7 条第 1 項第 2 号の表の下欄に掲げる処理係数を記載してください。ただし、条例第 8 条第 1 項に規定する知事が適当であると認めるときは、「特例適用」と記載してください。
- 6 「再生施設への搬入」の欄には、条例第 8 条第 2 項に規定する再生施設に搬入した場合のみ記載してください。

（規格 A 4）

三重県産業廃棄物税条例の応益性について

2004年2月16日
日本経団連
環境・技術本部長
高橋

1. 産業廃棄物課税の課税対象

：産業廃棄物を排出する事業者（一年間の課税標準量が1,000トンに満たない場合は課税しない） 大企業課税になっているのではないか。

2. 補助金制度

(1) 研究開発事業費補助金

対象者：県内に事業所を置く排出事業者

事業期間：二カ年を限度 大企業も含まれているが、単年度主義。

(2) 設備機器整備費補助金

対象者：県内に事業所を置く中小事業者 大企業は排除されている。

(3) 設備機器整備資金融資制度

対象者：県内に事業所を置く中小事業者（但し設備整備費補助金を受けたものは除く） 大企業は排除されている。

3. 納税と補助金の関係 - 平成13年度からの3カ年（経団連調べ）

(1) 納税企業：大手14社

(2) 補助金実績

研究開発：7社、うち納税企業は2社 14社納税して、2社しか補助金を受け取っていない状況で、応益性を主張しうるか。

設備機器：12社 設備機器の補助金を受け取っている納税企業はない。

資金融資 未調査

4. 結論：

(1) この制度は応益性に基づくとしているが、あまりこの点を強調するのはいかなものか。

(2) 産廃税は、結果として大企業から中小企業への支援のための所得移転制度になっているのではないのか。

(3) 応益性を主張するのであれば、補助金の使い方に工夫が必要ではないか。（但し、このことは大企業が本制度に不満を持っていることを意味しているわけではない）

以上

関係企業からのヒアリング結果

1. 税の効果に対する検証：税の導入による企業活動に対する影響

従来から環境に配慮したゼロエミッション活動を行っており、毎年、着実に、産業廃棄物の減量化に取り組んでいる。産廃税導入が契機となって、環境関連活動の変更を行ったという意識や事実はない。

2. 税の目的に対する検証：応益性を実感できない税

産廃税の課税対象企業は、年間 1,000 トン以上の廃棄物を排出する企業であり、中小零細企業ではない。にもかかわらず、県は、助成先として大企業を認めない方針である。〔課税対象企業と補助金対象企業のミスマッチ〕

- ・具体的な数値の提示に協力してくれた 3 社のデータ合計値は下記の通り。

| | 3 社合計値(平成 14 年度) |
|--------|------------------|
| 産業廃棄物量 | 約 8.100 トン |
| 産廃税納税額 | 約 810 万円 |
| 補助金 | 0 円 |

そもそも、県の補助金は基本的に単年度予算であり（本補助金の事業期間は 2 カ年限度）、大企業の研究開発になじまない、といった意見もあった。

- ・大企業の研究開発は、環境配慮の研究開発といえども数年を要するため、大企業にとって補助金申請のメリットが少ない（中小零細企業である地場産業にとっては、建築廃材・廃棄物処理等の研究開発を行うため、補助金に対するニーズは強いかもしれないが、これは、産廃税を納めた企業への支援ではない）。

< 他の自治体の産廃税に対するコメント >

産廃税の収入が、企業への補助金に使われていない自治体もある。

経営効率化のため分社化した企業の場合、グループ会社に対して廃棄物を持ち込んでも納税しなければならない。産廃税が企業の経営効率化努力を阻害している。

以 上